

建造中の国産空母の高精細画像が日本から流出した。戦力は隠蔽しなければならない

人民網 2016 年 12 月 28 日 08:32 ソース：中国国防報

阿部信行

(訳者コメント)

—中国が再び竹のカーテンを構築か—

昨年末の中国人民網に建造中の国産空母の高精細画像が日本から流出したとの記事が人民網に掲載されました。

記事の主旨は、外国スパイが中国を狙っているので民衆を巻き込んで対策を講じるべきだとするものです。

確かに中国が開発中の新型機には、中国の軍事愛好家が勝手に撮影したらしい写真がネットに流れる事例があります。中国は軍事愛好家（ミリタリオタク）も管理しようとしています。これが拡大していくと、かつての中国の密告社会が再現することになるかもしれません。

10 年以上前に中国に団体旅行した際に、北京の街でガイドに道路交通標識の意味を尋ねたところ、絶対教えられないとの返事でした。立体交差の道路で通行の仕方を説明した標識でした。こう言う意味ではないのか、と質問したところ、そうかもしれないがそうとは答えられないとの返事でした。

日本軍がまた攻めてくるとは本気で思っていないでしょうが、中国の新聞記事には、たまに日本軍が攻めてきた場合を前提とする記事が見られます。

5000 年？の歴史から見れば、100 年程度は昨日のように思われるのでしょうか。

最近、国産空母の高精細画像がネット上に多数流出し、注目を浴びた。国産空母のこれらの写真は、空母の外形、諸々の構造の細部を余すところなく写し出し、空母のアイランドの武器取付の構造まではっきり見ることができた。国産空母の主船体の組立に関するニュースはすでに官方から発表されてはいたが、このような高精細画像が日本の共同通信社のホームページに掲載されたのである。撮影者は同社の従業員である。

国産空母は正に建造中の国家の重要兵器である。関係者以外の不法な撮影は厳禁である。厳重な警戒の下、日本人がこのような高精細画像を撮影できたことは警戒心を起こさざるを得ない。

軍事機密保持は、国家の安全、政権の安定、戦争の勝敗を左右する。

歴史上、秘密漏洩によって重大な損害を受けた例はめずらしくない。日清戦争前夜、日本のスパイは、清政府の朝鮮増援のための輸送船の出航時間を正確に知ることができた。したがって日本海軍は予定海域において清軍輸送船を攻撃

した。これが世界を驚かせた”高升”号事件である。侵華戦争前、多くの中国人を装った日本浪人が中国に入ってきた。彼らは公然と各種地形の測量をし、資源の調査と社会調査等のスパイ工作を行った。それはその後中国に侵略するうえで詳細な情報となった。現在、ビッグデータ技術、撮影撮像、民用無人機技術が急速に発展し、技術が密かに盗まれる危険が増大している。これと同時に、外国スパイ機関が社会の各階層に対し謀反と利益誘導の触角を伸ばし始めた。最近、海南省三亜市の中級人民法院は国家機密漏洩事件に判決を下した。犯罪分子は軍港付近に赴き、軍艦の写真を撮り、活動状況を記録し、90回にわたり国外に情報を伝送した。一部は機密級情報であった。

現在、中国の国家安全状況は深刻かつ複雑に変化している。秘密保全是ますます厳しい状況になっており、スパイ対策の必要性はますます高まっている。厳しい教訓が我々に訴えている。スパイ対策は国家安全と民族利益に関わるため、いささかも疎かにしてはならない、と。

スパイに総合的に対処する秘密保全体系を構築しなければならない。

現在、スパイ対策は、主に秘密保全専門部署が担当している。一部の不法分子は秘密保全担当部署関連の機構及び個人を通じて秘密を入手している。したがって我々は、スパイ対策の防衛線の範囲を外部的に延ばさなければならない。それには、軍と地方の協力を強化し、奨励のメカニズムを構築し、直ちに先進部署を表彰する方式を採り、多くの民衆を指導し奨励し、特に秘密に関わる部署の周辺の民衆をスパイ防止秘密保全対策に参加させ、人々をスパイ防止ネットの一員に育成し、不法分子につけ込まれないようにしなければならない。

時代に適合したスパイ対処教育により、実効性を高める。

今年(2016)4月15日、初めての全国国民国家安全教育日において、新たなレベルのスパイ対策教育を行った。関連主管部門は、これを基礎にして、時代の特性に着眼し、創造性を高め、各種メディアに委託し、警戒の為の宣伝画を制作し、広告を出し、ミニ映画を制作し、秘密保全宣伝のチャット等を活用する。新しい理念、新しい対策を用いて、スパイ対策秘密保全教育の現代化、形象化、活発化、通俗化を図り、”今日、あなたが国家情報を漏洩したならば、明日は、これらの漏洩情報があなたの同胞を殺す可能性がある”との意識まで高める。

敵スパイの目標となる可能性がある「高度に危険な群体」の管理を強化すること。

秘密に携わる部署及びポストに就く者は、「高度に危険な群体」の一部であり、管理を厳格にしなければならない。また時代の発展と技術の進歩に伴って、軍事愛好家(ミリタリオタク)は、秘密を漏洩する恐れのある新たな「高度に危険な群体」と言える。すなわち一部の秘密保全部署と先端兵器は、軍事愛好家

によって手当たり次第に撮影送信されネット上に晒される。国外の多くの軍事機構と人員は軍事愛好家の無意識の行為によって多くの情報を得ている。したがって、軍事愛好家の自律を積極的に指導し、秘密装備品の盗撮を防止し、ネット管理を強化し、ネット企業の指導と管理を強化することによって、秘密文献及び写真資料の漏洩を防止しなければならない。

秘密漏洩に対する取り調べと処罰の制度を確立すること。

軍事機密が一旦漏洩すると、国家の安全と軍隊建設に重大な損失を与える。端緒を探し出し、迅速に捜査し、責任部署と責任者を取り調べ、事実を確定した上で、法により迅速に問責処罰しなければならない。そして類似事件の再発を防止しなければならない。(劉征魯)

編集責任者：邱越、閻嘉碁

以上